

CLINICAL APPLICATIONS

Symphytum officinale は、主に骨折に使用されます。

■骨

- ・骨折：骨折の際に、まず骨を正しい位置に整復します。Symphytum は、骨の融合を促進させるため、ずれたまま処方すると、そのままくっついてしまいます。またシュスラーの12組織塩の Calcareo phosphorica を併用することによって、さらに骨折の治療を早めることができます。Symphytum は、骨の内側、Ruta は骨の外側に作用します。つまり、軟部組織への打撲にはまず Arnica を使い、関節の靱帯の外傷には Rhus toxicodendron、骨の外側までの場合は Ruta、さらに骨の芯までは Symphytum をよく使用します。背骨の外傷には、Arnica に続いて Hypericum を使用します。
- ・骨腫瘍、骨肉腫
- ・過去の骨折部位の痛み
- ・顔の骨の悪性腫瘍
- ・骨膜炎：とくに長距離ランナーなどのスポーツ選手に起こった場合。

■眼

- ・眼球の外傷：鈍傷によるもの。
- ・眼の外傷には、まず Aconite や Arnica を与え、次に Symphytum を使うことがあります。

- ・眼珠の痛み

■切断した四肢の痛み



■睾丸の打撲

■過度の性交後の背中での痛み

■歯槽膿漏

MODALITY

➤ 暖めること、ゆっくりとした動き

⬅ 外傷、患部に触れること、圧迫、運動、過度の性交など

RELATIONS

・ Antidote : Cantharis

・ Follows well : Arnica

Syphilinum 梅毒の菌 [破壊衝動]

Lysate of treponemic serows fluids from primary cankers

BACK GROUND

Syphilinum 梅毒は、梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum* subsp *pallidum*) という細菌によって発病する性感染症で、性行為によって、性器の粘膜や皮膚を通して感染します。コロンブスが新大陸の発見とともにヨーロッパに持ち帰り、その後、爆発的に全世界に広がったと言われています。

「梅毒」という名前の由来は、第2期に見られる赤い丘疹が楊梅（ヤマモモ）の果実に似ているので、楊梅瘡（ようばいそう）と呼ばれたことから来ています。

英語の Syphilis は、16世紀のイタリアの詩人 Fracastoro が、この病気の感染者シフィルス（Syphilus）の詩を詠んだこ

とに由来します。ちなみに、かつては、イタリアでは梅毒のことをフランス病と呼び、一方フランスでは、梅毒をイタリア病と呼んでいた時期がありました。

梅毒トレポネーマは、直径 $0.1 \sim 0.2 \mu\text{m}$ 、長さ $6 \sim 20 \mu\text{m}$ の、屈曲した $6 \sim 14$ 回転のらせん状菌です。1905年に、ドイツの Fritz Schaudinn によって発見されました。暗視野顕微鏡で観察時の青い色彩から、pallidum（英語の pale）の種名が与えられています。1998年に全ゲノムのDNA配列が決定、公開され、細胞への接着能を担うと予想される遺伝子群が見つっています。

梅毒トレポネーマ菌は、低酸素状態でしか長く生存



(N)

できないために、感染は、菌を排出している感染者との、粘膜の接触を伴う性行為によります。また、感染した妊婦では、妊娠10週からは胎盤を通じて胎児へ感染し、先天梅毒の原因となります。

臨床症状は、感染後3週間程度の第1潜伏期を経て、経時的にさまざまな臨床症状が出現していきます。

- ・第1期梅毒（3週目）：梅毒トレポネーマが侵入した場所に硬性下疳ができます。硬性下疳は、通常、小円形で硬く、痛みがないのが特徴です。最初は、赤い丘疹として出現しますが、急速に潰瘍となります。潰瘍からの浸出液には、多量の梅毒トレポネーマが含まれています。局所リンパ腺症が発現します。硬性下疳は、やがて自然に消えます。
- ・第2期梅毒（3週～3か月）：梅毒トレポネーマは、血行性に全身に移行します。この時期の皮膚病変はきわめて梅毒に特徴的なもので、確定診断がもっとも容易になります。体の一部分あるいは多くの部分で、通常かゆみがない発疹の出現で始まります。梅毒で現れることがある発疹は多彩で、他の病気でも同様な発疹が現れることがあります。梅毒性発疹、発熱、全身倦怠感、筋肉痛、無痛性のリンパ腺症、粘膜疹、扁平コンジローマ、斑状の脱毛、髄膜炎、食欲不振、頭痛などが現れます。
- ・前期潜伏梅毒（1年以内）：第2期の症状が再発します。
- ・後期潜伏梅毒（1年以降）：無症状。外見上、何の症状も見られなくても、病原体は体内に存在し、内臓を侵出し始めています。脳、神経、目、心臓、血管、肝臓、骨、関節などが標的になります。
- ・第3期梅毒：
 - 心臓血管梅毒〔心血管への移行〕（10～30年）大動脈瘤、大動脈弁逆流、冠状動脈動脈口狭窄などの症状が出ます。
 - 神経梅毒〔中枢神経への移行〕
 - 1) 無症状期（～2年）：脳脊髄液中の白血球数、総

蛋白濃度上昇などの異常だけの時期

- 2) 急性梅毒髄膜炎（～2年）：頭痛、精神錯乱
 - 3) 上部神経麻痺（～2年）：顔面、聴覚神経麻痺
- ・第4期梅毒（進行麻痺、5～7年、男性の症例が有意に多い）：頭痛、めまい、人格障害、血管障害などが現れます。
 - ・脊髓痲（10～20年、男性の症例が多い）：進行性の痴呆、疲労感、運動失調、脊髓根部疼痛、無反射症、反射性瞳孔硬直などがあります。
 - ・gummas（～15年）：gummas（ゴム腫）に鼻骨が侵され、鼻が陥没することがあります。結節性梅毒疹などの肉芽腫、単球浸潤など。

妊娠中の女性が感染した場合、死産となったり、誕生後すぐに赤ちゃんが死亡したりする確率が約40%あります。母親が梅毒で治療されなかった場合、あるいは母親が妊娠34週を過ぎてから梅毒の治療を受けた場合、そのような母親から生まれた赤ちゃんは、40～70%の確率で先天性梅毒になります。初期または2期梅毒を治療せずにおくと、胎児にはほぼ100%感染します。

- ・先天性梅毒：
 - 1) 初期先天性梅毒（誕生後～2年）：骨軟骨症、貧血、肝脾腫、神経梅毒症状
 - 2) 後期先天梅毒（2年以降）：角膜炎、リンパ腺症、肝脾腫、コンジローマ、貧血、ハッチンソン菌、聴覚神経障害、回帰性関節症、神経梅毒症状など（有名な作曲家ベートーベンやシューベルトもそうでした。）

MATERIAL

Syphilinum は、治療歴のない梅毒患者の硬性下疳から漿液を採取して滅菌し、純水に溶かしたものを原料とします。

FIRST PROVING

1880年に、アメリカ人のSamuel Swanによってブルーピングされました（『Materia Medica of Nosodes』）。

MIND

Syphilinum タイプは、記憶力と集中力が弱い人に効果的です。年齢よりも老けて見えます。赤ちゃんでも老人のような顔つきをしていることがあります。見た目は平静を装っていますが、強い不安感をもっており、破壊衝動をもつ傾向があります。強迫観念をもち、病原体を怖れますので、手を洗いだすと止まらなくなったりします。

気性が激しく、執念深い性格で、他人から暴力を受けたり反対されると、暴力的な破壊行動に出ます。そういった行動の後は落ち込み、さらに内向的になり、自暴自棄へと進んでしまいます。飲酒や喫煙、ドラッグなどが大好きです。根本的には、家族の自殺やアルコール中毒、ドラッグ中毒、先天的な疾患などといったものが関与している例が見られます。

AFFINITY

Syphilinum は、主に粘膜、神経、骨に親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

・梅毒感染歴のある場合

第1期と第2期においては、必ず抗生物質の使用を行います。第3期以降の場合には、不可逆性の神経症状を除いては、レメディを考慮します。

・梅毒感染歴のない場合

■神経系

・頭痛：脳の深い所で起こっているような感じの痛みです。頭痛の最中は非常にイライラします。夜間、起きるので睡眠を妨げます。舌を突き出すと痛みが悪化します。痛みはゆっくり始まり、ゆっくり鎮まる傾向があります。

・神経痛

・恐怖症：病気を怖がります。とくにウイルスや細菌、寄生虫などの病原体を非常に怖れます。

・不眠症：午前2～4時頃に目が覚めてしまいます。朝6時頃まで眠れません。夜中に頭痛になります。夜、寝床で落ち着かなくなると、足を動かさずには

いられなくなります。

・強迫性障害：清潔に対する強迫観念行動、手を洗い続けるなど

・アルコール中毒症

・誇大妄想癖

■その他

・潰瘍化：辺縁が硬い潰瘍です。再発性の膿瘍や潰瘍痛みのない関節症

・斜視

・脱毛

・膿瘍

・骨膜炎、骨炎：骨の痛みが、とくに頭蓋骨と長骨に起こります。長骨の中でも脛骨はもっとも敏感です。夜に悪化します。ベッドの温かさで悪化します。冷湿布で楽になります。

・骨関節炎：とくに膝

・成長痛

・骨髄炎

・鼻や口腔内腫瘍

・口蓋裂、口唇裂

・便秘

・精管の硬結

・動脈瘤：補助的に使用することがあります。

MODALITY

▶ ゆっくりとした動きや散歩、体位を変えること、山などの標高の高い場所など

◀ 午前2～4時、**夜**、日没から日の出まで、極端な寒暖、海岸など